



第133 回古民家歴史部会・歴史探訪

「横浜散策18区シリーズ・第08回」

平成30年12月5日(水) 「港北区・新横浜駅周辺散策」

*集合：横浜線小机駅(改札口) 9時50分厳守同時出発

*解散：地下鉄新横浜駅



港北区は、昭和14年4月戸塚区と同時に誕生。当時の港北区は、現在の港北区、緑区、青葉区、都筑区をあわせた区域で、人口は約5万人だった。昭和44年に緑区(現在の緑区、青葉び都筑区の一部)を分区、さらに平成6年11月に行政区再編成により区の北西部地域が都筑区に編入されて現在の港北区になり、昭和39年、東海道新幹線の開通に伴って新横浜駅が開業、昭和60年には地下鉄が開業し、現在は「横浜新都心」として、広域的な施設や基盤の整備が進められている。平成29年度の人口は16.6万人。

【参考資料】★散策コース「横浜」(昭文社) ★神奈川県謎解き散歩(新人物文庫) ★港北区役所発行図書ほか

①雲松院

臥龍山 雲松院(曹洞宗)

雲松院は、小机城城主 笠原越前守信為が、主君の北条早雲と亡父 能登守信隆の菩提を弔うために建立されました。墓地の一角には、笠原氏一門とその家臣門奈氏五輪塔などが今も大切に祀られています。

②本法寺

長秀山 本法寺(日蓮宗)

池上本門寺9世日純(天文9年寂)が開山となり創建、慶安元年(1648)には江戸幕府より寺領5石の御朱印状を拝領したといひます。

境内の「石造龍吐手水鉢」は二頭の龍が鉢に絡みつき龍の口から水を吐いている。名工の内藤慶雲と松原祐太郎作で横浜市有形文化財。

③小机城址公園

小机城は「永享の乱」の頃に関東管領上杉氏によって築城されたとされています。太田道灌によって攻められた記録も残っています。一度は廃城となるものの、北条氏綱の手により修復され、家臣の笠原信為が城主として配置され、小机衆が組織されました。

1590年(天正18年)の豊臣秀吉による小田原征伐の際には、無傷のまま落城し、徳川家康の関東入府にともなって二度目の廃城となりました。現在は小机城址市民の森として、本丸、二の丸跡など城の遺構が整備されています。毎年春には小机城址まつりが開催されます。

④鶴見川流域センター

鶴見川流域センターは、水害や震災などの災害時の防災活動拠点として整備され、平成15年9月にオープンしました。

オープンにあわせ鶴見川流域の環境や自然、歴史などにふれながらの交流や情報交換のほか、総合学習にも役立つ拠点として機能を整備され流域のみなさんに活用いただいています。

流域センターでは鶴見川における防災、洪水に対する情報として横浜市のハザードマップや洪水時の鶴見川の様子などのパネル展示。

また、フロアにはバクのかたちをした鶴見川流域の衛星写真や流域の生きものを展示した水族館や川の本を集めたライブラリーのほか、観察や作業にもってこいのワークルームも設けております。

⑤日産スタジアム

横浜Fマリノスのホームスタジアム。

サッカーの試合は勿論各種のスポーツ大会、各種イベントが開催されている。また屋外(新横浜公園)では映画・テレビドラマ・CM・雑誌等の撮影に利用されることが多い。

⑥横浜市総合リハビリセンター

横浜市総合リハビリテーションセンターは、年齢や障害の種別を問わず、関係諸機関・施設とも連携しながら、一人一人のニーズに応じて最適なりハビリテーション計画を作成・実施しています。(当センターのHPより)

⑦新横浜ラーメン博物館

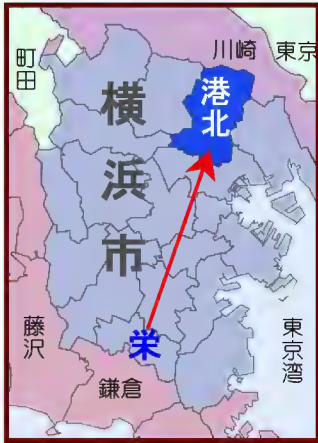
全国各地の有名ラーメン店舗を中心に、ミュージアムショップや駄菓子屋、喫茶店・スナックなどを併設。1988年設立。



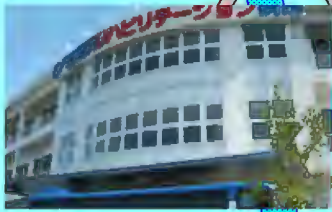
港北区 新横浜周辺散策



全行程約00km



港北区の位置



④ 鶴見川流域センター



① 雲松院



② 本法寺

石造龍吐水鉢